MaOIプロジェクト第１次戦略計画の見直し概要

資料２	令和４年10月27日 MaOIプロジェクト 戦略推進委員会

第１次戦略計画

第１章
計画の趣旨・達成目標

第２章
推進体制の整備

第３章

Ⅰ
「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成

Ⅱ
オープンデータ・オープンサイエンスの推進

Ⅲ
拠点・プラットフォームの整備と活用
（推進体制の整備）

Ⅳ
研究開発領域の重点化

Ⅴ
産学官連携による産業応用の推進

Ⅵ
人材育成　地域づくり
世界発信

戦略委員からの御意見

①関係機関との連携強化

・JAMSTECとの連携によるプロジェクトの成果創出を期待する
・社会実装の段階で県民に参画してもらう機会があると、地域におけるプロジェクトの理解に繋がる
・大学等の各連携機関と県の研究所との間での交流による、研究員の資質向上を期待する
・金融機関と連携した企業へのアプローチにより、プロジェクトを知ってもらえる機会が広がる
・VCやファンド等による資金獲得の流れができるとステップアップが期待できる
・事業化を担う企業側のニーズや技術をよく把握することで、産業応用の可能性が広がる
・ファルマ、FHCaOI、AOI等の他のプロジェクトとの隙間のない連携による相乗効果を期待する
・静岡市の取組や、海洋文化・研究拠点化推進協議会と連携することで地域づくりの促進を期待する

②海洋のＤＸ（スマートオーシャン）・BISHOPの拡充

・論文と関連データのリンケージを整えると研究者が使いやすくなる
・微生物ライブラリーの拡充、「機能性」のデータの付与に期待する
・どんなデータを集めどう活用するのか、いつまでに何をするのかという戦略を立てることで、データ活用の取組強化を期待する

③海洋環境の保全・ブルーカーボン

・陸域から海域まで全体を俯瞰して計画することでより効果的な取組となる
・日本が先進的に取組むべき事項として海洋におけるカーボンクレジットが挙げられる
・AOIのグリーンカーボンをはじめ、国や他の研究機関と連携し、全体を意識した取組となることを期待する
・海洋プラスチック対策事業は、問題の現状把握と科学的な検証などの丁寧な対応が欠かせない

④食料安全保障

・養殖を含めた国内生産の増大や備蓄を考えていくことで、不漁や有事への備えとなる
・海洋資源が不安定であるため養殖への期待が高まっており、種苗生産等の養殖技術のデジタル化も重要である
・廃棄魚や水産加工残さ等の農業用肥料・飼料への転換に注目が集まっている

⑤出口を見据えた取組の推進

・生産だけでなく流通・消費を見据えた戦略を持つことで事業化をより強力に推進できる
・黎明期は幅広に取り組み、産業界の需要を探していくことで、次第に方向性が定まる
・販売先のチャンネルを持つことができれば、ニーズの吸い上げや効果測定が可能となる
・知財活用の枠組みも重要性を増している
・シーズ創出における研究費の助成事業は、費用対効果を勘案した随時の見直しにより、県にとっても研究者にとっても実のある内容となることを期待する

⑥海外展開

・観光と連携した情報発信を期待する
・海外のクラスターとの連携は関連企業を連れて行き、マッチングに繋がった等の発展が望ましい
・国際的にどう動くのか方向性を示すことで、関係者がネットワークを構築しやすくなる

⑦広報活動、発信力の強化

具体的な事業化成果の紹介や、金融機関と連携した支援内容の広報、展示会等への出展に取り組むことでフォーラム会員の拡大とプロジェクトの発展が期待できる

⑧訴求力のある成果創出

・論文による学術的な評価と、製品数や特許件数という企業の評価を確実におさえることで、訴求力が高まる
・売上げ〇円、雇用創出〇人という成果創出を期待する

今後の取組方針

【新たな視点】
- ◆ デジタル技術やデータを活用した社会課題の解決への期待
- ◆ ブルーカーボンや海洋をフィールドとしたエネルギー問題への対応

第３章

- ➢ JAMSTECとの連携協定に基づく共同研究等の推進
- ➢ 県立大や東海大等との連携強化による、外部資金の獲得
- ➢ 事業化成果等を紹介しプロジェクトの有益性を訴求することで会員を拡大

- ➢ 有用性を可視化した魅力ある海洋微生物ライブラリーの構築
- ➢ BISHOPのデータ解析機能の強化
- ➢ BISHOPを中心としたDX化の展開を支援
- ➢ スルガベイシミュレータの活用を通じて、陸域と海域のつながりを踏まえた海の生態系保全と持続的な利活用に向けた研究を支援

- ➢ 新「駿河丸」を活用した海洋微生物資源等の採取支援
- ➢ 温水利用センター沼津分場の再整備により、持続的な養殖業の拡大や、海洋資源の保全の積極的な底支えとなる栽培漁業を引き続き推進

- ➢ 基金を活用した資源回復枠の創設により、サクラエビ等の水産資源回復に向けた調査・研究や、サガラメ藻場の回復を目指し、移植における定着率向上のための技術開発を実施

- ➢ 海洋生分解性プラスチック等の代替素材の技術開発や関連製品の導入普及を支援
- ➢ フーズ（FHCaOI）やAOI等の他のプロジェクトとの更なる連携強化による産業応用の推進
- ➢ 関係先と連携した販売チャンネルの確保を検討する等により事業化支援を強化

- ➢ つなぐ会による実践活動（環境保全活動の取組支援や啓発活動）を強化
- ➢ 国内外のクラスターとの連携強化
- ➢ プロジェクト全体の情報発信を強化